

千葉市新基本計画に関する政策評価（最終評価）（案）に対する意見の概要と市の考え方

No.	頁	シート	意見の概要	意見に対する市の考え方	反映
1	-	全体	行政の政策評価制度は企業と違い、受け手側が政策に直接関係ないことが多く、行政が発信した情報をイメージで受け取っている場合もあると思うため、中々難しいと感じる。	政策評価は幅広い政策分野を対象として行っているため、ご指摘のように必ずしも行政サービスの直接の受け手、当事者がアンケートに回答しているわけではありません。 そのため、当事者の意見を的確に把握するため、アンケートで把握した回答者の属性を踏まえた分析・考察を行うとともに、シート2-2「こどもを産み、育てやすい環境を創る」などでは、全体の回答傾向と当事者の回答傾向を比較したうえで分析・考察を行っております。	-
2	-	全体	市民アンケートのN数（対象人数）、n数（回答数）が少なく、回答層に偏りがあるので、検証調査が必要ではないか。 また、一番回答者数の多い40代、50代の回答傾向をHPで公表してはどうか。 さらに、数字のでないアンケート例として、市連協での地区連会長あてのアンケートは千葉市の実情を表しているため、この2つを重ね合わせて分析してはどうか。 加えて、単一自治会の会長アンケートを地区連を通して実施すれば、地域運営委員会の在り方の方向性が見えると思う。 今後の市民の核となる40代、50代との関わりは大事だ。	市民アンケートは、千葉市の総人口に対し信頼度の高い規模で実施しており、調査結果はHPで公開しております。 <URL> https://www.city.chiba.jp/sogoseisaku/sogoseisaku/kikaku/questionnaire-r3.html ご意見については、今後の事業検討における参考とさせていただきます。	-
3	-	全体	N数（対象者数）が少ないアンケートについて、回答率を増やすための手法や市政だよりにおける記事の要約やタイトルの付け方などを担当部署で研究して欲しい。	ご意見については、今後の事業検討の参考とさせていただきます。	-
4	-	全体	緑区にある千葉リハビリテーションセンターや千葉県こども病院に通うため、千葉市外に家を建てて1年もしない方が緑区に転居してくる事例を見聞きする。 住み心地ランキングの医療項目に緑区が出てこないが、鎌取エリアに特殊・高度な医療機関があることはあまり知られていない。 特に千葉リハビリテーションセンターは、高齢者や障害者がいつまでも健康でいきいきとした生活を送り、たとえ介護が必要となっても生活の質を落とすことなく、住み慣れた地域社会で生活ができるよう支援する県の基幹病院なので、重層的包括支援体制の構築と合わせてリンクを工夫してほしい。 また、そういう意味では、千葉市には広報不足でまだまだ知られていないポテンシャルがあるのではないか。	ご意見については、今後の事業検討における参考とさせていただきます。	-
5	-	全体	第3次実施計画の343事業について、一部評価されていないものがある。	本市の政策評価は、実施計画における個々の事務事業を評価するものではなく、基本計画に基づくまちづくりを政策単位で評価しております。 そのため、実施計画事業の記載にあたっては、「千葉市政策評価運用指針」に定める客観指標の効果測定を行うにあたって関係する事業を掲載していることから、原案のままとします。	-
6	-	全体	政策評価に計画外事業を記載する必要があるのか。	政策評価にあたっては、計画事業に加えて外部要因も含めて分析・考察をすることとしており、必要に応じて関連する計画外事業も含めた分析等を行っております。	-
7	-	全体	政策評価シートの体裁等について、以下のとおり対応していただきたい。 ①フォントはユニバーサルデザインフォントを採用すること。また、図表の名称や欄外の説明文についても、本文の文字サイズと揃えて欲しい。 ②図表の色彩は、色覚障害者に配慮した色（カラーユニバーサルデザイン）を使用すること。 ③図表の解析度が低く、さらにサイズが小さくて判読しにくいものがあるため、A4横長にして1点だけとする。 ④図表の番号を通し番号としてほしい。 ⑤棒グラフの幅が図によって異なるため、統一してほしい。 ⑥表の行の幅を統一してほしい。 ⑦本文中のH30やH30末などは、平成30年、平成30年度末と表記してほしい。 また、図表中のR2は令和2年、R2末は令和2年末と解釈してよいか。 ⑧図表について表側頭に空欄のものがあるなど、体裁に統一性がない。	①、②、③、⑤、⑥、⑧のご意見については、全体のレイアウト等を踏まえつつ、修正します。 ④については、シートごとに図表を管理しておりますので、原案のままとします。 ⑦については、ご意見を踏まえ、年号を和暦に統一します。なお、図表の数値は年度末の時点の場合もあります。	○

千葉県新基本計画に関する政策評価（最終評価）（案）に対する意見の概要と市の考え方

No.	頁	シート	意見の概要	意見に対する市の考え方	反映
8	2	政策評価シート作成の見方	（1）基本的な考え方について、「シート作成にあたっての基本的な考え方」はあると思うが、「見方」に関する基本的な考え方はないのではないかと。そのため、タイトルを「2 政策評価シートの作成とその見方」とし、その下の文章に「まず、政策評価シートの基本的な考え方を示し、次に政策評価シートの構成・記載内容を施策の柱1-2を例にしてその見方を示します。」と記載し、「（1）政策評価シート作成の基本的な考え方～」と続ける方が分かりやすいと思う。	ご意見を踏まえ、以下のとおり修正します。 <修正内容>P.2 2 政策評価シートについて （1）政策評価シート作成にあたっての基本的な考え方 （略） （2）構成・記載内容 施策の柱1-2「緑と花のあふれる都市空間を創る」を例にシートの見方を示します。	○
9	4	政策評価シート作成の見方	「肯定／否定と感じた理由」のグラフについて、肯定（n=2,296）と否定（n=563）の記載は市民アンケートの母数n=2,952の肯定的評価の割合77.8%、否定的評価の割合19.1%の実数を示していると思う。そのため、左右の棒グラフは中央の項目に対するアンケート結果になると思うが、グラフの下端に※印で注釈だけでは少し分かりにくい。 グラフは【市内の緑が豊かだと感じる割合】の肯定的あるいは否定的意見とする理由の比率を示していると思うので、タイトルを「肯定／否定と感じた理由（生活実感指標）」とし、グラフ中央の項目に吹き出しで「生活実感指標」と記載すると分かりやすいのではないかと。 また、赤の点線で囲んだ生活実感指標に説明があるとよく、②の説明に加え、③は赤点線、④は青点線の囲みとするとより分かりやすいと思う。	市民アンケートは、生活実感指標に加えて行動指標も含まれることから、ご意見を踏まえ、以下のとおり修正します。 <修正内容>P.4 「肯定／否定と感じた理由」のグラフについて、政策評価シートの見方に②の説明を追記するとともに、各シートのグラフにて、枠線の色を③は赤、④を青とします。	○
10	6	1-1 豊かな自然を守り、はぐくむ	客観指標の表について ア. 「No」は、「No.」の誤り。 イ. 表中の1～5は、何に対応しているか分からない。	アについては、ご意見のとおり修正します。 イについては、表中の「No.」は「千葉市政策評価運用指針」における客観指標に対応していますので、「政策評価シート作成の見方」にてその旨が分かるよう修正します。	○
11	6	1-1 豊かな自然を守り、はぐくむ	客観指標にて「市の取組みは、順調ではなかった。」と結論付けているが、表の数字を見るとH29末値よりもR2末実績値が下がった項目が3つあるため、「失敗だった」とすべきである。P.8の分析・考察にあるように新型コロナウイルス感染症の影響が原因であれば、ただし書きでNo.2,4,5にその旨を記載すべきである。 また、（2）市民アンケートの全体傾向で、「市の取組みに対し、ある程度評価が得られた」と結論付けているが、客観指標との乖離が大きいこと、アンケートの仕方が課題だと思ふ。	客観指標の総括について、市の取組みだけでなく新型コロナウイルスなど外部要因の影響も考えられることから、「順調であった」から「順調でなかった」までの4段階評価を行っています。 また、政策評価シートの構成として、客観指標及び市民アンケート（生活実感指標・行動指標）の結果について、外部要因も含めた総合的な分析・考察を行ったうえで、取組みの評価を行うこととしております。そのため、新型コロナウイルス感染症の影響が否かについても、分析・考察の中で行うこととしていることから、原案のままとします。 政策評価制度における、市民の生活実感に対する市の事業の影響度については、政策分野や個々の指標、事業等によって一律ではなく、また市民の実感には、例えば時事問題など市の取組み以外の外部要因も影響を与えるため、双方の連動性の確保には制約があるものと認識しております。そのような中でも、市民アンケートの設問に実感の理由を追加し、市の施策との関連性の把握に努めるとともに、客観指標についても、より代表性の高い指標の導入や事業との連動性に基づく見直しを図っております。加えて、確からしさを持った分析・考察となるよう、学識経験者等から構成される附属機関の意見を踏まえて取り組んできたところであり、指標の設定、アンケートの手法については妥当であると認識しております。	—
12	8	1-1 豊かな自然を守り、はぐくむ	囲み文字の「ア 景観、イ 水遊びや海水浴、ウ 稲毛海浜公園プール」について、次の（ア）、（イ）との関係が分かりにくく、「（ア）市民アンケート結果」の選択割合として再掲されているので、削除した方が見やすい。	「2 分析・考察」については、肯定／否定と感じた理由から主な項目を抽出して記載しております。 P.8は複数の項目が該当するため重複する形となっておりますが、P.10の「水がきれい」のように該当する項目が1つの場合、項目名を記載しないと抽出した項目が分からないことから、原案のままとします。	—

千葉県新基本計画に関する政策評価（最終評価）（案）に対する意見の概要と市の考え方

No.	頁	シート	意見の概要	意見に対する市の考え方	反映
13	11	1-1 豊かな自然を守り、はぐくむ	<p>考察の「水質の数値上の『きれいさ』と、市民が感覚的に感じる『きれいさ』の間にギャップがあると考えられる。～水質の他に、透明度、水生生物の有無、ごみの有無～」について、その通りだと思う。</p> <p>しかし、次の段落で「親水空間の確保や、川や川辺でのレジャーの創出～」と市民の感じる「きれいさ」とは異なった対策を記載しており、市民の理解を深めることはできない。「きれいさ」を感じなければ、水に親しむことやレジャーを楽しむことはしないと思う。</p>	<p>景観などの改善を含めて「親水空間の確保」としているところですが、ご意見を踏まえ、以下のとおり修正します。</p> <p><修正内容>P.11 (ウ) 考察 3ポツ目 ・～広域的な水質改善の取組みを継続するとともに、川辺の景観等の改善や更なる親水空間の確保～</p>	○
14	11	1-1 豊かな自然を守り、はぐくむ	<p>「花見川を活かしたまちづくり」について、「散策ができる川辺」の評価が花見川区以外から低く、認知度や魅力をあまり感じられていない状況であると考えられるため、整備の必要性を再検証する必要がある。</p> <p>花見川は花見川区以外からアクセスが良いとは言えず、無闇な整備計画は無駄足となるリスクがあるため、防災上の観点以外で整備を無理に行う必要はないのではないか。</p> <p>少なくとも、新型コロナウイルス感染症の影響等で財政状況が厳しいと思われる中、本件の優先度は高くないと考えられるため、費用対効果や長期的な維持に係るメリット・デメリットについても考慮すべきではないか。</p>	<p>本市は、花見川や都川をはじめとして13の河川を擁しています。これらは多様な生き物をはぐくむ貴重な自然であると同時に、流域周辺をはじめとする地域のくらしに潤いや安らぎを与えうる地域資源でもあります。</p> <p>「散策ができる川辺」について、花見川区・美浜区において肯定的評価が否定的評価を上回ったことは、花見川沿いにサイクリングコースが整備されていることもあり、両区民が花見川に対し親しみを感じていただいているためと考えております。</p> <p>一方、花見川以外の河川について、流域における親水空間が不足していることが、それ以外の区において否定的評価となった一因であると考えております。</p> <p>また、花見川は、上流部は豊かな自然と市内有数の野鳥の生息地であり、中流部はサイクリングコースや桜並木など市民の憩いの場、下流部は河口付近の都市的土地利用の中で、生活圏に近い身近な河川であるなど、様々な個性や魅力があることから、引き続き、花見川の魅力を最大限活かしたまちづくりを進めていくとともに、花見川以外の河川についても、親水空間の創出など市民に身近に親しんでいただけるための取組みが必要と考えております。</p> <p>ご意見のありました、費用対効果や長期的な維持管理の視点も十分に踏まえつつ、今後の取組みを進めてまいります。</p>	—
15	14	1-2 緑と花のあふれる都市空間を創る	<p>(1) 客観指標の指標名と(2) 市民アンケート(全体傾向)の項目の関連性が弱いと、結果が乖離していると感じる。関連性がない結果を抽出して比較し、評価しても「市の取組」には生かせないと思う。</p> <p>例えば、客観指標No再掲の「市街化区域内で保全されている緑地の割合」と市民アンケート(全体傾向)の「市内の緑が豊かだと感じる割合」の結果は、市街化区域内と市内全域の違いがあるため、関連性がないと思う。</p> <p>あえて言えば、P.15の「肯定/否定と感じた理由」について、「身近な公園の緑」の肯定/否定の割合が拮抗している結果が、客観指標No再掲に近いと思う。</p>	<p>政策評価制度における、市民の生活実感に対する市の事業の影響度については、政策分野や個々の指標、事業等によって一律ではなく、また市民の実感には、例えば時事問題など市の取組み以外の外部要因も影響を与えるため、双方の連動性の確保には制約があるものと認識しております。</p> <p>そのような中でも、市民アンケートの設問に実感の理由を追加し、市の施策との関連性の把握に努めるとともに、客観指標についても、より代表性の高い指標の導入や事業との連動性に基づく見直しを図っております。加えて、確からしきを持った分析・考察となるよう、学識経験者等から構成される附属機関の意見を踏まえて取り組んできたところであり、指標の設定、アンケートの手法については妥当であると認識しております。</p>	—
16	14	1-2 緑と花のあふれる都市空間を創る	<p>「市内の緑が豊かだと感じる割合」が肯定77.8%とあるが、どちらかといえばの回答が多く、緑の感覚的視認性について考えると配置の仕方が影響していると思う。</p> <p>駅前緑は必ず目に付くが、総武線沿線では駅前の緑が貧弱で、一番目に付くのは津田沼駅の千葉工大側である。それ以東は西千葉駅まで目立つところがない。千葉駅前広場の緑の構成と中央公園の緑はもっと目に付くはずだが、印象が薄い。</p> <p>また、千葉みなと駅の市役所側の公園は手入れが悪いが、工夫すると庁舎と対比して千葉市のイメージは高くなると思う。</p> <p>それと同様に、身近な公園も数でなく質が重要である。</p>	<p>ご意見については、今後の事業検討における参考とさせていただきます。</p>	—
17	16	1-2 緑と花のあふれる都市空間を創る	<p>「都市公園等の整備については順調に進んでおり、面積も増加。市民1人当たりの都市公園面積は、首都圏政令市において1位である。」とあるが、公園は面積だけでなく質(整備の程度)や利便性(アクセスや使いやすさ)、活用性が重要である。</p> <p>また、他都市とは都市環境や交通事情が異なるため、1人当たりの面積をもって客観的評価が高いと一概に言えないのではないかと。</p> <p>そのため、当該部分を削除するか、1人当たりの面積に加えて都市面積に対する比率等を追記し、総合的に評価してはどうか。</p>	<p>公園の緑に対する市民の評価には、ご意見のとおり、公園の量のみではなく、質や利便性など様々な要素が複合的に影響していると認識しております。</p> <p>一方、公園の質や利便性については個々の公園によって異なる特徴があり、総括的な分析・考察が現時点では難しいことから、ここでは、市民アンケートの結果(「公園の緑」の項目にて肯定的な評価)を分析するにあたり、他都市とも比較可能な定量的な要素として、1人当たりの都市公園の面積について記述したところです。このため、記述については原案のままとしますが、地域の人口構成や公園の利用状況などの状況を踏まえた身近な公園の充実を図るための取組を進めるなど、質の向上や公園の活性化に向けて引き続き取り組んでまいります。</p>	—

千葉市新基本計画に関する政策評価（最終評価）（案）に対する意見の概要と市の考え方

No.	頁	シート	意見の概要	意見に対する市の考え方	反映
18	16	1-2 緑と花のあふれる都市空間を創る	「～市民1人当たりの都市公園面積は、首都圏政令市において1位である。」について、確かに図表1だけ見ると首都圏政令市の中では1位だが、首都圏以外での順位が気になる。せめて、「首都圏政令市の中ではかなり広い面積となっています。」が適切かと思う。 また、図表1の出典がP.5「政策評価シートの見方」と異なるため、統一した方がよい。	「身近な公園の緑」に関する肯定的なアンケート結果を分析・考察するにあたり、市民の享受する便益を測る観点から、面積ではなく、市民1人当たりの都市公園面積を記載しております。また、居住地選択における比較対象としての観点を含め、首都圏政令市間での比較としておりますので、原案のままとします。 出典については、P.16の「大都市統計年表」に統一します。	○
19	26	1-3 環境に配慮した低炭素・循環型社会を創る	「新型コロナウイルス感染症の影響で、家庭で過ごす時間が長くなるなどの要因により、家庭系ごみの排出量は令和元年以降、増加傾向にある」とあるが、家庭系ごみ排出増加の主要因をそのように分析するならば、その分外出する時間が短くなるため、事業系ごみが減る要因になるのではないかと。そのため、「～増加傾向にあるが、その分事業系ごみが減少し、トータルで減少傾向にある（図表4）。」と記載した方がよいと思う。 また、「ごみの再生利用率」において、「ペーパーレス化の進展～減少している」とあるが、根拠データを示していただきたい。	ご意見を踏まえ、以下のとおり修正します。 また、「ごみの再生利用率」について、事業系古紙再資源化量が減少傾向にあることから、昨今の社会情勢等を踏まえて要因を分析したものですので、ペーパーレス化に関する根拠データはありません。そのため、当該記述を削除します。 <修正内容>P.26（イ）①関連する客観指標 ・「市民1人1日あたりのごみ排出量」：941g/人・日（目標：1,038 g/人・日） [達成] 目標を達成したが、新型コロナウイルス感染症の影響で、家庭で過ごす時間が長くなるなどの要因により、家庭系ごみの排出量は令和元年以降、増加傾向にあるが、 一方で飲食店の休業など事業者の経済活動が停滞したことにより、事業系のごみ排出量は減少している （図表4）。 ・「ごみの再生利用率」：32.1%（目標：35.0%） [未達成] 特に事業系古紙類の再資源化量が大幅に減少したことで、全体の再資源化量が減少している。 ※上記に加え、事業系古紙再資源化量の推移に関する図表を追加します。	○
20	26	1-3 環境に配慮した低炭素・循環型社会を創る	P.26の図表について、3つすべて暦年の数値か。 また、「市民1人あたり」や「市民一人あたり」は、「市民1人当たり」ではないか。「千葉市文書事務の手引き」に準拠していただきたい。	ご意見のとおり修正します。 また、P.26の図表は、すべて年度末の数値となります。	○
21	26	1-3 環境に配慮した低炭素・循環型社会を創る	ゴミの分別がなされ、コロナ後は排出量が減っているが、可燃ごみの日に剪定枝や草のごみが常に排出されている。回収されているが、業者は回収量で評価されているのか。回収せず置いていけば、家庭ゴミの排出量は減ると考える。	木の枝などについては、月2回の回収としているところですが、少量である場合や適切な保管が難しいなどやむを得ない場合には、可燃ごみの回収日でも、透明な袋で3袋程度までは排出できる運用としております。 ご意見のとおり、月2回の回収日に出していただくことで焼却ごみの削減と再資源化につながることから、適切な排出方法等について、引き続き周知に取り組んでまいります。	—
22	26	1-3 環境に配慮した低炭素・循環型社会を創る	緑区版市政だより5月号の色刷り囲み記事で剪定枝等の回収日が掲載されたが、目に付かない。「家庭ごみチャットボット」についても、QRコードがスマホでスキャンできず、情報伝達に関する評価項目があれば未達である。	より分かりやすい情報発信ができるよう、今後の参考とさせていただきます。	—
23	29	2-1 健康で活力に満ちた社会を創る	市政だよりについて、記事によって視認性が低く、高齢者には見づらかったり、見えなかったりするものがあり、参加者数に影響を与えていると思われる。 例) 緑区5月号 みどり健康義塾→見づらい→参加者がいない 健康ひろばの一覧表→見やすい→応募者が多い	より分かりやすい情報発信ができるよう、今後の参考とさせていただきます。	—
24	31	2-1 健康で活力に満ちた社会を創る	「健康診査(がん検診など)の種類が充実している」について、充実しているかどうかは他都市と比較しなければ分からない部分があるため、市民意見のみならず所管課による情報収集を継続的に行い、公衆衛生等に係る情勢等を見極めながら充実を図っていく必要があると思われる。	ご意見については、今後の事業検討における参考とさせていただきます。	—

千葉市新基本計画に関する政策評価（最終評価）（案）に対する意見の概要と市の考え方

No.	頁	シート	意見の概要	意見に対する市の考え方	反映
25	31	2-1 健康で活力に満ちた社会を創る	特定健康診査実施率について、図表1でR2年度の値が掲載され、新型コロナウイルス感染症の影響で低下したと分析しているが、がん検診受診率については、目標に達成したとして普及啓発の効果だと分析している。何故、がん検診受診率に新型コロナウイルス感染症の影響がなかったのか説明していただきたい。	がん検診受診率は厚生労働省が3年ごとに実施する国民生活基礎調査（大規模調査）の結果を掲載しており、新型コロナウイルス感染症の感染拡大前の令和元年度の数値が最新の数値となっております。特定健康診査実施率とは数値の時点が異なるため、詳細な対比、分析を行うことは困難ですが、令和4年度の調査結果を踏まえ、引き続き受診率向上に努めてまいります。	—
26	32	2-1 健康で活力に満ちた社会を創る	P.32の「【図表4】R2年度 男女別実施率」の表に令和2年度の記載がない。また、「国民生活基礎調査」は、「国民生活基礎調査（厚生労働省）」とすべきではないか。	3年ごとに実施される国民生活基礎調査の大規模調査の結果を掲載しておりますが、図表の名称が誤っておりました。以下のとおり修正します。 <修正内容>P.32 ・【図表4】男女別実施率 ・国民生活基礎調査（厚生労働省）	○
27	32	2-1 健康で活力に満ちた社会を創る	【図表4】のタイトルが「R2年度 男女別実施率」となっているが、R2年度の実施率が掲載されていない。また、出典が「R元年国民生活基礎調査より」となっているため、整合性も取れていない。	3年ごとに実施される国民生活基礎調査の大規模調査の結果を掲載しておりますが、図表の名称が誤っておりました。以下のとおり修正します。 <修正内容>P.32 ・【図表4】男女別実施率 ・国民生活基礎調査（厚生労働省）	○
28	35	2-1 健康で活力に満ちた社会を創る	往診してくれる病院があることが知られていない。	ちば医療ナビ（千葉県医療提供システム）において、往診対応の医療機関などを検索することが可能であり、市ホームページでお知らせしております。市民の方が必要とする情報が届くよう、引き続き周知に努めてまいります。	—
29	39	2-1 健康で活力に満ちた社会を創る	「本市は2つの市立病院を有し、市内にも大学病院など大きな病院や身近な病院・診療所が充実している～」について、救急車を受け入れできる救急告示病院は限られており、人口に対する病床数や診療科による偏りもあることから一概に充実しているとの評価は聊か軽率ではないか。記載にあるかかりつけ医の周知や救急車等の適正利用に関する啓発に加え、急病時の対処などを分かりやすく示し、いざというときに慌てないための方策を知ってもらうことや、困った時に相談できる体制の構築とその周知について、県や医師会などと連携して取り組んでいくことも必要だと思われる。	ご指摘の記述については、本市が属する千葉医療圏と県内の他の医療圏と比較して記載したものですので、その旨が明確となるよう修正します。また、ご意見のとおり救急時における対処を周知することで医療機関の適正利用につながると考えられることから、以下のとおり修正します。 <修正内容>P.39（ウ）考察 3ポツ目 ・「急病になっても診療が受けられる」についても～。 特に夜間応急診療については、症状が軽度である患者の割合が内科を中心に引き続き高い水準にあるため、引き続き、 <u>医師会など関係機関と連携し</u> 、かかりつけ医等を持つことの重要性と併せ、適切な受診を促していく必要がある。 ・本市は、 <u>県内の他の医療圏と比べ、相対的に医療資源が充実している</u> 一方、コロナ禍を契機に、より充実した医療提供体制が市民から求められているため、引き続き感染症対策の徹底により市民が安心して医療機関を受診できる環境をつくることにも、新型コロナウイルス感染症の経験を踏まえた健康危機管理体制の強化を検討していく必要があると考えられる。	○
30	46	2-2 こどもを産み、育てやすい環境を創る	考察に「『身近な公園』」について、市民の具体的な要望理由は明らかではないが、遊具やベンチ等の公園施設の老朽化や、草刈り・剪定等の維持管理回数などが一因と考えられる」とあり、P.42のグラフでは確かに肯定が63.1%、否定が39.7%と他に比べて否定の割合が大きい。しかし、P.46の②関連する事業では「遊具更新等の目標事業量を概ね達成、公園緑地の整備の目標事業量を概ね達成」との記載があり、考察の内容は矛盾するのではないか。公園の規模が小さいなど、他の要因を探る必要があると思う。	P.42のグラフ中、「身近な公園」の肯定的回答の割合が市民全体では63.1%あるのに対し、当事者では24.7%と大きく低下することから、その要因についてP.46で考察したところ。また、関連する事業では目標を概ね達成しておりますが、遊具の修繕や更新に伴う一時的な利用禁止や草刈りまでの一時的な繁茂などは日常的に利用する当事者の目につくところであると認識しているため、このような考察となっております。今後、地域の人口構成や公園の利用状況などの状況を踏まえた身近な公園の充実に取り組む中で、いただいたご意見を参考にまいります。	—

千葉市新基本計画に関する政策評価（最終評価）（案）に対する意見の概要と市の考え方

No.	頁	シート	意見の概要	意見に対する市の考え方	反映
31	46	2-2 こどもを産み、育てやすい環境を創る	「(ア) 男性の積極的な育児への関わり」について、緑区の子育てリラックス館がおゆみ野の中心部から誉田町2丁目の保育園に移動した結果、社会福祉協議会緑区事務所のボランティア室に子育てサークルが増えた。 ふれあい館は地域施設とリラックス館、高齢施設が数合わせで作られているが、土日には男親が子どもと一緒にきており、見聞きした内容では、子どもと一緒に遊ぶのに加え、色々な育児に関する情報が入ることで、育児への関わり方が変わっていくそうだ。 そのため、畳部屋のある公民館やコミュニティセンターで日曜日にリラックス館を開催するのも一つのアイデアではないか。その会場で男性向け講座やイベントを開催するのもよいと思う。	ご意見については、今後の事業検討の参考とさせていただきます。	—
32	49	2-3 ともに支えあう地域福祉社会を創る	ボランティアに関するアンケートの結果は、必ず「関心はあるが参加したことはない」となる。 理由は、「きっかけがない、時間がない、参加の仕方がわからない」となるが、「きっかけがない、時間がない」は、「関心がない」あるいは「興味がない」と同じ象徴的な理由のため、解決策を見出すうえで選択肢から外した方がよいと思う。	アンケートについては、今後の対策を検討するうえでの参考とするため、幅広い項目を設定したところですが、ご意見については、次のアンケートにおける参考とさせていただきます。	—
33	50	2-3 ともに支えあう地域福祉社会を創る	月に1回以上、定期的に地域活動に参加している市民は10%程度（P.50）とあるが、自分の周りでは月7日以上行っている人が多い。 しかし、現在は収入のためにパートタイムで働く人も多く、駅前の自転車整理の仕事に人気がある。 そこで、パートタイムの募集にあたって、ボランティア活動をしている人が優先的に採用されるようにしてはどうか。支えあいの時代なので、「公平」という考え方は変えるべきである。	ご意見については、今後の事業検討の参考とさせていただきます。	—
34	51	2-3 ともに支えあう地域福祉社会を創る	図表4「政令市の状況」を見ると、横浜市、相模原市が際立って多い。 神奈川県、特に横浜市は飛鳥田市長時代から福祉をキーワードにして市政を行ってきた結果だと思ふため、地道に続けることが大事だと思う。	他都市の状況も参考にしながら、引き続き、地域で支え合う社会の実現に向けて取り組んでまいります。	—
35	53	2-3 ともに支えあう地域福祉社会を創る	P.137 (イ) ①2 ポツ目「地域運営委員会設置地区数」について、単に設置した数が問題ではない。設置までのプロセスを工程表として作成したうえで、実際に地域で設置に向けた働きかけを行い、PDCAサイクルで評価する仕組みにする必要がある。	地域運営委員会については、住民同士の助け合いと支え合いによる地域運営を持続可能なものとする体制づくりを進めるための組織であることから、より多くの地域における設置を促進してまいります。また、設置にあたっては、各地区の個別の実情等を踏まえた支援策を検討・実施する必要があると考えます。 ご意見については、今後の事業検討における参考とさせていただきます。	—
36	53	2-3 ともに支えあう地域福祉社会を創る	おゆみ野地区における地域運営委員会について、3つの中学校区にある広域的な地域運営委員会が運営できれば、高い相乗効果が期待できる。 また、幕張ベイタウン及びおゆみ野の地域運営委員会の設立・運営事業を行政側の課題も含めて分析し、まとめられるかが千葉市の将来を左右する。 今後、公共事業の統合や誘導地域における駅前再開発を行うにあたっては、この2つの地域を推進するソフトができ上がらないと時間の浪費が続く。	ご意見については、今後の事業検討における参考とさせていただきます。	—
37	56	2-4 高齢者が心豊かに暮らせる長寿社会を創る	客観指標No.42「あんしんケアセンターにおける相談受付件数」について、R2末目標値がH29末値を下回っているのはおかしい。目標値を下げることは、相談に來ないで欲しいという意味表示と解釈できる。 また、地域によってはあんしんケアセンター自体が目立たない場所に存在していることもあり、積極的な取組の姿勢に欠けると判断されても仕方がないと思う。	客観指標のR2末目標値は、H29年度に策定した「千葉市政策評価運用指針」にて、H28末現状値（40,400件）を踏まえて設定したところですが、その後、相談件数は増加傾向にあります。高齢者人口の増加等も踏まえ、専門職員を増員配置しており、市民が地域で安心して暮らし続けられるよう引き続き身近な相談窓口として取組を進めてまいります。	—
38	56	2-4 高齢者が心豊かに暮らせる長寿社会を創る	おゆみ野東部では、町内自治会や老人クラブでの交流活動が少ない。これは町内施設や公民館がないことが起因している。おゆみ野自体の歴史が浅いせい、コミュニティ活動が周辺の地区と比べて定着しておらず、住民は電車やバスに乗って若葉区、仁戸名、蘇我へ行く人が多い。	ご意見については、今後の事業検討における参考とさせていただきます。	—

千葉市新基本計画に関する政策評価（最終評価）（案）に対する意見の概要と市の考え方

No.	頁	シート	意見の概要	意見に対する市の考え方	反映
39	56	2-4 高齢者が心豊かに暮らせる長寿社会を創る	市の相談体制、あんしんケアセンターや自立支援センターなどに関する情報が増え、支援制度が複雑化しているため、手軽にまとまった情報源から情報を得ることが難しい。手軽に情報を得られるよう、要約された資料があると良いと思う。	ご意見については、今後の事業検討における参考とさせていただきます。	—
40	56	2-4 高齢者が心豊かに暮らせる長寿社会を創る	寿命が延び、Sr体操で膝・腰を痛める人が出てきた。ラジオ体操も同様であり、健康課はそのような症状への目配りが必要になった。不健康な人を作らない効果は大きく、国際生命科学研究機構の「テイクテン!®の10の食品群のチェックアプリ」や「NHK健康チャンネル」などの活用は高い効果が見込まれると思うので、採点項目に加えられないか。	ご意見のとおり、健康の維持・増進のため、効果のある健康アプリを活用することは有効であると考えますので、次のアンケート項目や今後の事業検討における参考とさせていただきます。	—
41	65	2-4 高齢者が心豊かに暮らせる長寿社会を創る	考察に「～『地域で高齢者へのボランティア活動』がともに否定的な回答の割合が高くなっており～」とあるが、そもそも負担や責任が大きい支援を無償ボランティアで賄おうとする考え方自体が問題である。 「【図表11】今後、高齢者を支援する活動を行いたいと回答した者の割合（年代別）」において、20代、30代の数値が突出して低いことに危機感を持ち、その背景と対策を精査すべき。 私見として、当該世代におけるライフワークバランスの問題(日常生活で参画する余裕がない)なども関係すると考えられるため、この背景における分析や検証、対策案の策定が必要であり、このことが少子化対策にも繋がるほか、若い世代の自治会への参画など、他の施策にも影響を及ぼすと考えられる。 少なくとも、積極的な回答が10代から社会人となる20代になった途端に半減している点は無視してはならないものであり、背景を含めた分析及び課題の抽出を行う必要性に言及すべきではないか。	ご意見のとおり、「今後、高齢者を支援する活動を行いたいと回答した者の割合」において20代、30代の割合が低い状況は課題であると認識しており、また、ご指摘のようにワークライフバランスも関係していると推測しております。 一般的な傾向として、大学等を卒業後、就職に伴い、日中地域にいない、あるいはこれまで住み慣れた地域を離れるといったケースが多くあります。またその後の結婚や出産・子育てといったライフステージの変化も、これらの年代層の地域活動に充てることができる時間を減らす方向に働くことが多いと考えられます。 このような背景も踏まえ、P.65に「ボランティア等に対する負担を減らし、誰もが気軽に参加できる仕組みをつくることが必要と考えられる。加えて、介護・支援を必要としない高齢者が増えていることから、高齢者も担い手の中心として活動できるよう、生きがいづくりの視点を含めて取り組んでいく必要があると考えられる。」と記載しているところですが、より明確となるようご意見を踏まえ、以下のとおり修正します。 <修正内容>P.65 (ウ) 考察 4 ポツ目 ・～ボランティア等に対する負担を減らし、 年代やライフステージにかかわらず 誰もが気軽に参加できる仕組みをつくることが必要と考えられる。	○
42	74	2-5 障害のある人が自立して暮らせる共生社会を創る	高低差がある歩道は、車椅子にとっては不便である。緑化と逆行するようだが、歩道に植栽がない方がバリアフリーであり、歩道も広くて安全だ。	ご意見については、今後の事業検討における参考とさせていただきます。	—
43	83	3-1 未来を担う人材を育成する	将来の人材育成に関する項目は政策評価にないが、市役所や社協の職員に子どもの高校選びについて話を聞くと、皆どこへ通わせるか悩んでいる。そこで、市立高校の偏差値を上げるという案を考えたが、反発があった。 しかし、最近市立高校の偏差値は60に届いており、それ以上となる日も来そうな気がする。評価として出しにくいと思うが、この件での評価は高い。 また、高齢者サークルに来ている男性で、子どもが男5人おり、1人だけ県立高校で他の子は市立高校へ入学した。就職で東京へ出た子どもは県立高校に入学した1人のみで、残る4人は実家近所に住んでおり、孫もいると言っている。 自立都市千葉市は、郷土愛の高校から人材が出て来るのではないか。	ご意見については今後の事業検討における参考とさせていただきます。	—
44	84	3-1 未来を担う人材を育成する	「肯定／否定と感じた理由」のグラフにおいて、赤点線で囲んだ左側に○や◎記号が1か所しか付されていないため、追記していただきたい。	ご意見のとおり修正します。	○
45	96	3-2 生涯を通じた学びとスポーツ活動を支える	客観指標の結論は、「市の取組みは順調ではなかった」だが、市民アンケートの結論は、生涯学習について「市の取組みはある程度評価」、スポーツについて「評価が得られた」としている。この場合、市の取組をどのように改善するのか。	平成29年度に策定した「政策評価運用指針」において、本市の政策評価は「客観指標」、「生活実感指標」、「行動指標」で構成されています。 そして、客観指標の達成状況と市民アンケートによる把握する生活実感指標・行動指標を関連付けて分析・考察をすることとしており、分析・考察にあたっては、市民の回答理由の傾向を踏まえております。 生涯学習についてはP.99以降に、スポーツについてはP.109以降にそれぞれ分析・考察をしております。	—

千葉市新基本計画に関する政策評価（最終評価）（案）に対する意見の概要と市の考え方

No.	頁	シート	意見の概要	意見に対する市の考え方	反映
46	96	3-2 生涯を通じた学びとスポーツ活動を支える	千葉県科学館について、静岡市では幼稚園児年長組、小学校低学年の遠足先として使われることが多く、色々な遊びや実験器具を備え、お弁当を食べたり休息したりできる広い部屋がある。 学校行事や幼稚園行事は雨天順延になると日程調整が大変なので、バス旅行の行き先として非常に人気が高いとのことであった。	千葉県科学館においても、保育園や小・中学校などでの団体見学を受け入れております。 今後も、幅広い年代の方の学びの場となるよう、取り組んでまいります。	—
47	99	3-2 生涯を通じた学びとスポーツ活動を支える	公民館のWi-fiは設置方法が悪く複数の部屋で使い難く、市民から使われていない。 そのため、塾に行けない子どもに勉強できる機会を与えるため、中高生のYouTube学習用の自習室をつくってはどうか。	現在、公民館やコミュニティセンター等には、「CHIBA CITY Wi-Fi（チバシティワイファイ）」という名称で整備したWi-Fi環境を提供しているところですので。いただいたご意見については、今後の事業運営における参考とさせていただきます。	—
48	125	3-4 多様な交流・連携により新たな価値を創る	客観指標No.74「市と大学が連携して実施した取組数」及びNo.75「連携協定締結企業との連携事業数」の具体的な取組に関する説明があるとよい。 No.75についてはP.131の考察に若干記載されているが、No.74については一切内容に関する記載がない。連携数ではなく、何をしたかが重要ではないか。 また、考察の「本市には高度な専門性や人的資源を有する多くの大学等が立地しており」は政策評価とは関係のない記述ではないか。	ご意見を踏まえ、以下のとおり修正します。 なお、考察の記述については、多くの大学等が立地しているという本市の特性により、大学等との連携事業が増加していることを意図しております。 <修正内容>P.131（イ）考察 1 ポツ目 ・本市に立地する、高度な専門性や人的資源を有する多くの大学等と本市との連携事業は増加傾向にある。 ・大学等との連携事業は、地域活動への学生ボランティアの参加や市民公開講座の提供など、幅広い連携を行っているところであるが、多様な主体の連携によるまちづくりを一層進めるため、連携を強化していく必要がある。	○
49	132	3-5 市民の力をまちづくりの力へ	「市民の半数以上が地域や社会に役立つ活動に関心がある。」とあるが、子どもの積極的参加を求めるため、どこの自治会でも町内清掃と防災演習を顔合わせ会としてやるべきだと思う。 啓発にもなり、費用の割にコミュニティ効果が大きい。	ご意見については、今後の事業検討における参考とさせていただきます。	—
50	133	3-5 市民の力をまちづくりの力へ	男女共同参画に関する棒グラフについて、「地域の役員（町内自治会など）へ就任するにあたって男女差がない」との問いに49.8%の人が肯定的に回答している。しかし、例えばP.139の図表7「自治会の女性役員数割合」では千葉市全体で37%となっており、アンケート結果と乖離がある。 アンケートの「就任するにあたって男女差がない」とは、就任には何の制約もないとの理解の結果だと思うが、そうだとすると設問に課題があると思うので、「男女差がない」の意図することをご教示いただきたい。	女性活躍の視点から、企業における役員・管理職の状況と同様、地域活動においても役員の状況はひとつのメルクマールとなると認識しております。 その前提のもとで、地域活動における役員になるにあたって何らかのバリアを感じているかどうかを把握するために設定したものです。 なお、「男女差がある」と設定すると形式的には肯定的回答となりますが、内容的には否定的回答となるため、「男女差がない」という設定にしております。	—
51	136	3-5 市民の力をまちづくりの力へ	【図表4】「市民が今後やってみたい活動」の棒グラフは、各活動の参加したことがある人（母数777人）、参加したことがない人（母数1,994人）に対する比率（%）とある。 母数が約2倍であるにも関わらず比率で比較するのは誤解を招く結果になると思うので、表示方法の改善を求める。	図表4では、活動に参加したことがある人とならない人で今度やってみたい活動にどのような傾向がみられるかを把握する意図で表示しておりますので、原案のままとします。	—
52	139	3-5 市民の力をまちづくりの力へ	「【図表7】自治会の女性役員割合」について、実態は図表の数字よりも多い。実際は女性が役員になっているのに、名簿上は男になっているほか、ジェンダーギャップも偏在する。 最近の建売団地における会長は女性が多いのが実状で、地域への関心も高い。	ご意見については、今後の事業検討における参考とさせていただきます。	—
53	139	3-5 市民の力をまちづくりの力へ	考察の4ポツ目に「女性会長比率が女性役員比率に比べ低いのは、地域を代表し、・・・会長の役割の大きさが影響している可能性がある」とある。この内容は、男性は役割の大きさに耐えられるが、女性は難しいと捉えられ、女性蔑視とみられる可能性がある。	ご意見を踏まえ以下のとおり修正します。 <修正内容>P.139（ウ）考察 3ポツ目 ・本市の町内自治会における女性会長比率は13.6%と、上場企業の役員に占める女性割合6.2%（出典：男女共同参画白書令和3年版）を上回っているが、依然として低い状況にある。これは、地域のリーダを決定する場面において、固定的性別役割分担意識が影響している可能性がある。	○

千葉市新基本計画に関する政策評価（最終評価）（案）に対する意見の概要と市の考え方

No.	頁	シート	意見の概要	意見に対する市の考え方	反映
54	140	3-5 市民の力をまちづくりの力へ	「女性が結婚や育児をしながら仕事を続けられる環境」及び「女性が結婚や育児で退職しても再就職できる環境」について、昨今、共働きでなければ生活が成り立たない世帯が多々見受けられる。そもそも、育児は女性だけが行うものではないため、この項目自体も対象を女性に限定すべきではないと考える。男女「共同」参画を謳いながら対象を女性に限定していることは明らかな矛盾であり、男性の育児参加や職場復帰等についても女性と同様に考えていく必要がある。そのため、本項目における根本的な考えや方針の見直しが必要であり、男性の育児休暇取得等について理解を広げるための啓発に取り組む旨等を追記すべきではないか。	ご意見のアンケート項目については、「結婚や育児」と仕事との両立に困難を抱える女性が多くいる実態を踏まえ、女性の社会参画に係る現状を把握するために実施したものです。また、ご意見のとおり男性の育児参加等についても進めていく必要があると認識しており、P.142「(2)ワーク・ライフ・バランスの推進」の項目で記載のとおり、男性の育児休業取得率の増加や育児休業後も継続的に育児に参加できる環境の整備が重要であることから、引き続き周知・啓発に取り組んでまいります。	—
55	144	4-1 市民の安全・安心を守る	シート4-1について以下の事項を点検するとともに、他のシートについても同様の観点で点検いただきたい。 <修正箇所> ①「関連する計画事業」に第3次実施計画の事業を全て掲載すること。 ②「歩道の整備」などの事業は整備箇所を明確にすること。 ③計画事業は事業内容が分かるよう具体的に記載すること。 ④図表は黒地に白地の文字を使用しないこと。 ⑤計画は略称ではなく正式名称にするとともに、計画期間を追記すること。 ⑥P.159の「交通安全に推進」に係る考察について、全国の交通事故死傷者数について記載しているが、基本的に千葉市の状況を記載すべきではないか。	①について、本市の政策評価は、基本計画に基づくまちづくりの評価を目的としており、実施計画の全ての事業を評価するものではないため、原案のままとします。②、③について、本市の政策評価は、基本計画に基づくまちづくりの評価を目的としていることから、計画事業については、事業の達成状況等の簡潔な内容を記載しているため、原案のままとします。④、⑤について、ご意見のとおり修正します。⑥について、ご意見を踏まえて以下のとおり修正します。なお、図表12「全国の年齢層別人口10万人あたりの交通事故死傷者数」が交通事故死者数のグラフとなっていたことから、死傷者数のグラフに修正します。 <修正内容>P.159(イ)考察 2ポツ目 ・本市の年齢層別人口10万人あたりの交通事故死傷者数は、全国と同様、20歳代の若者世代が最も多くなっているが、どの世代も年々減傾向にある。 しかし、今後、高齢化が進むことを勘案すれば、高齢者の死傷者数増加が見込まれるため、高齢者向けの交通安全教育や研修会等の取組みが必要である。	○
56	144	4-1 市民の安全・安心を守る	指標No.89「心肺機能停止傷病者の救命率」は「心肺機能停止傷病者の社会復帰率」に変更すべきではないか。単なる「救命」では患者の予後が不明確であり、心肺蘇生を行う真の目的は救命に加えて患者の社会復帰であることから、これを目標にしてこそ意義があるのではないか。	ご意見のとおり、心肺機能停止傷病者が救命後、社会復帰できることが重要と考えます。今回の政策評価は、平成29年度に構築した「政策評価運用指針」に基づき実施しておりますので、指標は原案のままといたしますが、ご意見については次回の政策評価における指標の参考とさせていただきます。	—
57	150	4-1 市民の安全・安心を守る	「消防団が日常的に活動している」及び「地域での防災活動が活発に行われている（自主防災組織、避難所運営委員会の活動など）」について、考察に「概ね達成」とあるが、ハード面は達成できてもそれを扱う肝心の「ヒト」に関する項目に未達成が生じている時点で達成とは言えない。モノやカネを使うヒトが欠けては意味がない。	関連する計画事業について、7事業のうち5事業が達成又は概ね達成したことから、考察において「関連する計画事業は概ね事業を達成」と記載したところです。ご意見のとおりソフト面の充実が重要であり、考察では「自主防災組織の結成」及び「防災アドバイザー派遣」のソフト事業は未達成となっていることや、市民アンケートが否定的な評価となっていることを踏まえて記述しています。	—
58	150	4-1 市民の安全・安心を守る	消防団や自主防災組織の項目で担い手不足について言及しているが、そもそも加入を呼びかける活動や案内を見たことがなく、加入したくてもその窓口が曖昧であったり、活動の内容や頻度が分かりにくい印象がある。特に、若い世代を確保するためにはライフワークバランスを考慮することが重要であり、過度な負担が生じないよう運営面での指針を具体的に示すことが必要であると感ずることから、これらの点についても追記すべきではないか。	自主防災組織については、主体となる自治会のほか、市政だより（各区版）や市ホームページなどで結成を呼び掛けており、消防団員についても同様に、リーフレットの配布などにより団員募集に取り組んでいるところですが、ご意見を踏まえ、より市民に伝わるよう周知・啓発に取り組んでまいります。また、ご意見のとおり特に若い世代を消防団加入に促すためには、活動内容が過度な負担にならないよう留意する必要があると認識しております。そのため、令和5年度から能力や個々の事情に応じた特定の業務に従事する機能別消防団員制度を導入しましたので、併せて周知に取り組んでまいります。	—
59	150	4-1 市民の安全・安心を守る	市の特性上、市民の転入・転出が激しいと考えられるため、転入者でも地域の一員として気軽に参加できる風土作りも重要である。	ご意見のとおり、転入者が早くから地域の一員として地域に溶け込むことは重要であると認識しており、転入者に対し、町内自治会への加入を促すリーフレットを配布するなど、周知・啓発に努めているところです。転入者をはじめ、多様な主体が地域活動に参画できるよう引き続き取り組んでまいります。	—

千葉市新基本計画に関する政策評価（最終評価）（案）に対する意見の概要と市の考え方

No.	頁	シート	意見の概要	意見に対する市の考え方	反映
60	150	4-1 市民の安全・安心を守る	市民アンケートにて、「防犯カメラや防犯街灯など」とカメラと街灯を一緒に扱い、否定的に評価された結論付けるのは問題がある。維持管理において両者の差は大きく、防犯カメラを町内自治会に委ねることは難しいと思う。また、一緒に扱うことで、防犯街灯も否定されると街が暗くなり危険になる。	防犯カメラと防犯街灯については、地域防犯設備の例示として記載したものです。そのため、あくまで「地域の防犯設備が整っている」の問いに否定的な回答が多い結果を踏まえ、分析・考察を行っていることから、原案のままとします。	—
61	153	4-1 市民の安全・安心を守る	②関連する計画事業の計画事業について、8ポツ目の「救命救急士の養成」は「救急救命士の養成」の誤りではないか。	ご意見のとおり修正します。 <修正内容>P.153 ②関連する計画事業8ポツ目 「 救急救命士 の養成」：11人（目標：12人）〔概ね達成〕	○
62	155	4-1 市民の安全・安心を守る	考察にある「救命講習受講者の対人口年間普及率が政令市で一位」はすごいが、救命処置は実際に行われてこそ意味があると考えるため、市民が救命処置を行う事例が多くなったときに「普及率が高い」と言えるのではないか。そのため、「受講率の高さ＝普及している」はずれていると感じるため、後述の「本市での応急手当実施率も増加傾向にあるため」の部分具体的に明示してはどうか。	ご意見のとおり、市民が救急現場において適切に救命処置を行える状況が望ましいと考えており、バイスタンダーの育成に取り組んでいるところです。一方、全ての救急現場において救命活動に携わった方を把握することは困難であり、統計上、正確な数字を保有していないことから、受講率をもって普及率の評価とさせていただきます。ご意見については、次回の政策評価における指標の参考とさせていただきます。	—
63	155	4-1 市民の安全・安心を守る	考察に「今後は救急業務にデジタル技術を活用するなど、効果的かつ効率的な救急活動等を推進していく必要がある。」とあるが、デジタル技術の種類やデジタル技術がどのように現場到着時間の短縮と救命率の向上に寄与するのか具体性に欠けるため、方針やプロセスも明記した方が良い。	救急業務におけるデジタル技術の活用については、例えば、過去の出動実績から各地域における救急要請の動向をデジタル技術により分析し、現場到着時間の短縮を図ることを想定しておりますが、現時点においては幅広い業務における活用を検討している段階であることから、考察に具体的な記載はしませんが、ご意見を踏まえ、以下のとおり修正します。 <修正内容>P.155 (イ) 考察4ポツ目 ・救急隊の出動件数が増えるにつれ、入電から現場到着までに要する時間が長くなる傾向がある。コロナ禍の一時的な減少を除けば、今後も出動件数の増加が見込まれる中、現場到着に要する時間の短縮と救命率の向上を図るため、 救急車適正利用の周知・啓発に引き続き取り組むとともに、ICTを活用した救急情報を迅速に伝達するシステムの更新など 、救急業務にデジタル技術を活用し、効果的かつ効率的な救急活動等を推進していく必要がある。	○
64	155	4-1 市民の安全・安心を守る	救急隊の出動件数増加への対応には人員面の整備も必要不可欠であると考えられるため、これについての課題があれば追記すべきだが、財政面での負担も大きくなることを踏まえると、より効率的な消防行政に向けた施策を検討していく必要があるのではないか。現時点における具体案や方針があれば示してはどうか。	ご意見を踏まえ、以下のとおり修正します。 <修正内容>P.155 (イ) 考察4ポツ目 ・救急隊の出動件数が増えるにつれ、入電から現場到着までに要する時間が長くなる傾向がある。コロナ禍の一時的な減少を除けば、今後も出動件数の増加が見込まれる中、現場到着に要する時間の短縮と救命率の向上を図るため、 救急車適正利用の周知・啓発に引き続き取り組むとともに、ICTを活用した救急情報を迅速に伝達するシステムの更新など 、救急業務にデジタル技術を活用し、効果的かつ効率的な救急活動等を推進していく必要がある。	○
65	157	4-1 市民の安全・安心を守る	「駐車場の整備・統廃合」について、目標を下回った理由として千葉市自転車等の駐車対策に関する総合計画の記載があることに違和感があるので、以下のとおり修正すべきではないか。 「駐車場需要を確認するうえで実施することとしていたが、新型コロナウイルス感染症拡大による影響により、整備・統廃合については一部再検討とすることとしたため目標を下回った。」	駐車場の整備・統廃合については、「千葉市自転車等の駐車対策に関する総合計画」を更新する中で将来の駐車需要に関する推計等を見直すこととしたため、事業ペースを落としたことが目標を下回った理由ですので、趣旨が分かるよう以下のとおり修正します。 <修正内容>P.157 (ア) ② (計画事業) 8ポツ目 ・「駐車場の整備・統廃合」 令和4年度に策定した「第3次千葉市自転車等の駐車対策に関する総合計画（令和5～14年度）」における最新の駐車場需要に基づいて整備・統廃合の箇所を再検討することとし、事業実施ペースを落としたため、目標を下回った。	○

千葉市新基本計画に関する政策評価（最終評価）（案）に対する意見の概要と市の考え方

No.	頁	シート	意見の概要	意見に対する市の考え方	反映
66	157	4-1 市民の安全・安心を守る	図表11について、各年代別人口における10万人あたりの交通事故死傷者数ではなく、単に各年代別の交通事故死傷者数ではないか。また、凡例の若者のついて、「際」が「歳」の誤り。また、図表11と12を改めていただきたい。	図表11については、10万人あたりの交通事故死傷者数に相違ありません。なお、図表12について、交通事故死者数のみのグラフとなっておりますので、死傷者数のグラフに修正いたします。また、折れ線グラフの方が視覚的に死傷者数の推移が分かりやすいと考え、原案のままとします。	—
67	169	4-3 ひと・モノ・情報がつながる基盤をつくる	公共交通について、JRの肯定的評価は高いが、東日本JRのドル箱路線の5番目に総武線、7番目に京葉線が入っているため、否定的意見が少ないのは当たり前と言える。また、京葉線を臨海線につなぐことは京葉線の運賃収入を削ることになるので、京葉線の維持に影響を与えらる。加えて、コストをかけて投資を行う意味はJRにはなく、私鉄同士の乗り入れはあるが、JRでの事例は少ないはずだ。鎌取駅が混雑しているという意見を市長と語ろう会に出した地域があるが、ローカル線でないのでその程度の混雑度がないと便数を確保できない。現状では、総武線快速では外房線の方が内房線に比べて利便性の高いダイヤになっている。コロナ期末期から電車の異音発生で東京も含め検査遅延が増えているおり、乗客が減ると点検コストが賄えないと新聞に書かれている。過去に千葉みなと駅に快速停車を働きかけたが、結果は海浜幕張駅以东は全て各駅停車になった。総武線と違い京葉線は余裕があるので、海浜幕張迄各駅停車は段階的減便になっている。	ご意見については、今後の事業検討における参考とさせていただきます。	—
68	170	4-3 ひと・モノ・情報がつながる基盤をつくる	おゆみ野は道路の配置上、採算の取れるバス路線を配置しにくく、高齢者から不満が多い。あと10年もすると、団塊ジュニアからもバス路線に対する不満が爆発すると思われる。その理由は、鎌取駅とおゆみの南地区のイオンタウンを最短で結ぶ道路が緑道のハンプで50m遮られていることだ。拡幅して信号機をつければ良いが、通学路とマラソン大会のため緑道を重要視し、登校・下校時の見守り活動を未だに続けている。	ご意見については、今後の事業検討における参考とさせていただきます。	—
69	173	4-3 ひと・モノ・情報がつながる基盤をつくる	歩行環境として、「歩道の広さ」、「段差が少ない」が掲載されているが、「歩道の維持管理」も取り上げていただき、市民アンケートにおいて肯定的回答が多い理由を知りたい。歩道の植栽の維持管理は季節によって目にするが、歩道の舗装面がガタガタになっているケースが多いと思う。タイル貼りの舗装面の一部（帯状）がアスファルト舗装で盛り上がり、歩行に障害をきたす場合も。	歩道の維持管理については、P.164「生活基盤の充実」にて分析・考察をしております。	—
71	177	4-3 ひと・モノ・情報がつながる基盤をつくる	「自転車が交通ルールを守っている」について、自転車による危険運転が多々見受けられることから、県警などと連携した指導取締、啓発強化のほか、教育委員会とも連携して学校における交通安全教育の強化などについても盛り込んでどうか。	ご意見を踏まえ、以下のとおり修正します。 ＜修正内容＞P.178（ウ）考察2ポツ目 ・しかし、依然としてルールやマナーを守らない利用者が一部いることにより、総合的な印象が否定的なものとなっている可能性があるため、引き続き千葉県警察と連携して交通安全啓発を実施するとともに、学校における交通安全教室等を通じて、幅広い年齢層に対し自転車利用における走行ルールやマナーの向上に取り組んでいく必要がある。	○

千葉市新基本計画に関する政策評価（最終評価）（案）に対する意見の概要と市の考え方

No.	頁	シート	意見の概要	意見に対する市の考え方	反映
72	177	4-3 ひと・モノ・情報がつながる基盤をつくる	<p>【図表5】「自転車走行環境整備前後における変化」において、「車道を走る自転車の割合」と「車道の左側端を走る自転車の割合」がそれぞれ整備前後で示されている。この図をそのまま読み解くと、整備が完了した12路線では、すべての自転車は車道を走行しており、そのうち法令通り車道左端を走行する割合が増えているということになるが、正しいか。</p> <p>また、12路線には歩道は無いと理解してよいか。</p> <p>加えて、整備の具体を示していただきたい。</p>	<p>図表5は、自転車走行環境の整備により、車道を走行している方の変化と、車道を走行している方のうち、法令通り車道左側を走行している方の変化を示しています。</p> <p>そのため、整備後は37%の方が車道を走行し、そのうち97%の方が左側を走行していることとなりますので、より分かりやすい図表に修正します。</p> <p>また、整備した12路線には歩道があります。</p> <p>これまで整備した具体的な路線については、本市の政策評価は基本計画に基づくまちづくりの評価を目的としていることから、計画事業に関する記載は事業の達成状況等の簡潔な内容としているため原案のままとします。HPにて整備箇所等を公開しておりますので、ご参照ください。</p> <p>https://www.city.chiba.jp/kensetsu/doro/bicycle/soukoukankyouseibi.html</p> <p>※上記ページの「3 自転車走行環境の整備」をご参照ください。</p>	○
72	181	5-1 都市の魅力を高める	<p>肯定／否定と感じた理由の「魅力的なスポーツ施設がある」の間に対して、蘇我駅周辺エリアが海浜幕張駅周辺エリアよりも否定的に回答されたことを重視していただきたい。</p>	<p>政策評価では、P.3の「抽出の考え方」に基づき特徴的な項目を抽出し、分析・考察を行うこととしております。</p> <p>また、本項目については、エリアごとに分析・考察を行っておりますので、原案のままとします。</p> <p>ご意見については、今後の蘇我駅周辺エリアの魅力向上に向けた取組の参考とさせていただきます。</p>	—
73	190	5-1 都市の魅力を高める	<p>「ウ 魅力的な歴史・文化財施設」、「エ 魅力的な文化・芸術施設」について、【千葉駅】【海浜幕張駅】【蘇我駅】でカテゴリズすること自体が問題だと思う。</p> <p>千葉市にも歴史・文化・芸術施設があるが、上記3駅は最寄り駅ではないと思う。</p>	<p>市民の3都心に関する実感等を調査するうえで、歴史・文化施設及び文化・芸術施設をアンケート項目に追加したものです。</p> <p>市内における文化芸術については、シート3-3「文化を守り、はぐくむ」にて分析・考察を行っております。</p>	—
74	192	5-2 地域経済を活性化する	<p>市民アンケートの「市民が充実して働ける環境があると感じる割合」について、「わからない」と回答した割合が26.8%と肯定／否定と大差ない比率であることを注視していただきたい。</p> <p>千葉市民の約6割（否定32.1%+わからない26.8%）は千葉市内で積極的に働きたいと思わないということではないか。</p>	<p>アンケートの回答にあたっては、日常の暮らしでの実感として判断できない場合に「評価できない（政策評価シート上では「わからない」）」と回答いただくこととしております。そのため、「わからない」については、肯定的回答・否定的回答の範疇外として取り扱っております。</p>	—
75	205	5-3 都市農林業を振興する	<p>市民アンケートの「市内に農業・農村に親しめる環境があると感じる割合」について、肯定が46.8%で否定37.2%を上回っている。</p> <p>しかし、P.206の「肯定／否定と感じた理由」でプラスの項目は、【市内産農産物購入・飲食の機会】のうち2項目のみである。少なくとも、ふるさと農園、市民農園、観光農園などで高い数値を示さないと「市内に農業・農村に親しめる環境がある」とはならないのではないか。</p>	<p>「市内に農業・農村に親しめる環境があると感じますか」の問いに対して、肯定的回答（「そう感じる」「どちらかと言えばそう感じる」）をした方が選択した理由をP.206のグラフの左側（青）に、否定的回答（「どちらかと言えばそう感じない」「そう感じない」）を選択した方の理由を右側（白）に示しています。</p> <p>P.206のグラフは、ご指摘のふるさと農園・市民農園・観光農園を含め、肯定の方、否定の方がそれぞれ理由を選択した結果ですので、「市内に農業・農村に親しめる環境があると感じますか」という問いに対する全体傾向と矛盾するものではないと考えております。</p>	—